

1 総括

令和6年度は新型コロナウイルスやインフルエンザ等の施設内での感染拡大はなく、また、5年度に4件あった誤薬、怠薬等が起きず、概ね順調に活動が行えた1年であった。一方で送迎中の車両事故が6件あり、内1件は自転車と接触した人身事故となってしまった。不幸中の幸いにも軽症ではあったが、改めて安全運転の徹底が必要と感じている。また、職員の指導強化や内部牽制強化のために、現場リーダーの不足が課題となっているが、6年度は職員集団に活気がないとの指摘も受けており、加えて明るい事業所の雰囲気づくりも必要と感じている。

利用者支援においては数年来、本人、家族の高齢化等に伴う生活基盤の整備や介護者不在等の緊急時の対応が大きな課題となっている。6年度もショートステイ、居宅介護、グループホーム等の利用相談などがあり、地域生活継続のための支援力向上、地域連携の重要性を再確認した一年であった。利用者の安全確保や満足度向上、事業所の活動の充実と共に利用者の生活を総合的に支援するという事を事業の中心に据えて今後も取り組んでいく必要がある。

2 事業概要

- 1) 施設名 ワークセンター夢の樹
- 2) 事業種別 就労継続支援B型
- 3) 所在地 東京都小平市大沼町2-1-5
- 4) 経営主体 社会福祉法人未来
- 5) 利用定員 50人
- 6) 利用現員 73人（令和7年3月31日現在）
- 7) 法人認可年月日 平成14年12月11日
- 8) 事業開始年月日 平成20年4月1日
- 9) 職員
管理者 1名
サービス管理責任者 2名（常勤換算1.2）
職業指導員 6名（常勤換算4.9）
生活支援員 11名（常勤換算9.0）
目標工賃達成指導員 1名（常勤換算1.0）

職員グループ別内訳

- ・あかしあグループ
職業指導員 3名（常勤換算1.9）
生活支援員 3名（常勤換算2.5）
目標工賃達成指導員 1名（常勤換算1.0）
- ・みどりグループ
職業指導員 3名（常勤換算3.0）
生活指導員 8名（常勤換算6.5）

- 3 基本理念 一人ひとりの自己実現の支援。
互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築。
安心と希望の持てる生活。
- 4 基本方針 生き生きと働ける職場
日中活動の保障
豊かな生活の支援
個別支援計画に基づいた計画的な支援
安心できる将来への支援

5 実施事業

《あかしあグループ》

- 1) 就労支援事業

- (1) 傘の値付け
- (2) ダイレクトメール封入、封緘、シール貼り
- (3) 古着の値付け
- (4) 箱の組み立て
- (5) 小平市報の折込
- (6) 公園清掃
- (7) 神社清掃
- (8) 教会のトイレ清掃
- (9) 事務封筒製作
- (10) 緑化推進事業
- (11) タイルをレールに張る建築資材製作

2) 生活支援事業

- (1) 夕方生活支援事業

3) 行事

(1) 年間計画

- 7月 食事会（とんでん 立川栄町店）
- 11月 一泊旅行（千葉県鴨川方面）
- 12月 忘年会（ココス 三鷹大沢店）
- 1月 初詣（小平熊野宮神社）

(2) その他

- 喫茶（月1～2回）

4) 日 課

開所・送迎	8:30～9:40
朝会	9:40～9:50
準備	9:50～9:55
作業	9:55～10:50
休憩	10:50～11:00
作業	11:00～12:00
昼食	12:00～13:00
作業	13:00～14:00
休憩	14:00～14:10
作業	14:10～15:10
片付け	15:10～15:15
終礼	15:15～15:20
送迎・清掃	15:20～16:20
作業点検、記録等	16:20～17:00
職員打ち合わせ	17:00～17:30

《みどりグループ》

1) 就労支援事業

- (1) ポスティング作業
- (2) 古着の値付け
- (3) 箱の組み立て
- (4) マンション清掃
- (5) 事務封筒製作
- (6) 緑化推進事業
- (7) 空き缶つぶし
- (8) ダイレクトメール丁合、封入、封緘、シール貼り
- (9) 公園清掃
- (10) 資源回収

(11) タイルをレールに張る建築資材製作

(12) おもちゃの袋詰め作業

2) 生活支援事業

(1) 生活支援プログラム(週3日実施)

(2) 夕方生活支援事業(週2日実施)

3) 行事

(1) 年間行事

- 4月 新社会人を祝う会、永年勤続表彰式
- 5月 小平市障がい者運動会
- 6月 室内ゲーム(割りばし落としなど)
- 7月 創作活動(コースター作り)
- 8月 創作活動(スクラッチアート)
- 9月 ボウリング(久米川ボウル)
- 10月 秋の一泊旅行(茨城県大洗方面)
- 11月 東京競馬博物館(府中市)
- 12月 クリスマス会(ピザの食事会、○×ゲーム)
- 1月 初詣(小平神明宮)
- 2月 DVD鑑賞(映画:天気の子)
- 3月 デザート作り(チョコレートフォンデュ)

(2) その他

音楽教室(月1回)

4) 日 課

開所・送迎	8:30~9:00
朝礼	9:00~9:20
準備	9:20~9:40
作業	9:40~10:40
休憩	10:40~10:50
作業	10:50~11:50
休憩	11:50~13:00
昼礼	13:00~13:10
作業	13:10~14:10
休憩	14:10~14:20
作業	14:20~15:10
作業片付け	15:10~15:15
終礼・お茶	15:15~15:25
送迎・清掃	15:25~16:30
作業点検・記録等	16:30~16:45
職員打ち合わせ	16:45~17:30

6 重点課題・目標

1) 活動

《各グループ共通》

(1) 利用者一人ひとりが楽しく安心して過ごせる環境づくりと様々な経験による豊かな生活の実現

【成果と課題】

日常の声かけや、気持ちが不安定になった際のクールダウンのための個室の活用、不安に感じている利用者の相談に乗るなど利用者一人ひとりが安心感を持てるように取り組んだ。多くの利用者は利用者同士また職員との関係性も良好で安心して作業や日中活動が行えたように感じる。作業終了後のボウリングやDVD鑑賞等の余暇活動や、月1回の行事、月1回の音楽活動に多くの利用者が参加した。

(2) 危機管理の徹底による事故防止（転倒、誤薬、誤嚥等）

【成果と課題】

昨年度に誤薬が4件、起きたことの反省から、マニュアルの遵守など事故防止の徹底に取り組んだ。今年度は、転倒や誤薬などの大きな事故はなかったが、上半期に昼食時に食べ物を喉に詰まらせるヒヤリハットが2件発生した。すぐに吐き出すことができたため、大事には至らなかったが、その後は食事を刻むことで、再発防止を図っている（現在6名に刻みの対応を実施）。昨年度から、食事をのどに詰まらせることが見られるようになっており、食事の様子を観察から嚥下機能の低下の発見が重要になっていると感じている。また、1名の利用者が胸の痛みを訴え、救急車で病院へ搬送することがあった。結果として入院や手術など大事には至らず、翌日から通所を再開したが（当該利用者は狭心症を患っており、その影響で胸が痛みだした）、特に高齢の利用者が多い1Fグループでは基礎疾患の把握や健康状態の観察が重要になってきている。

(3) 本人、家族の高齢化等による家族機能や生活基盤の変化への対応

（職員の相談支援能力の向上や地域の関係機関との連携強化により、一人ひとりの利用者が地域で安心して暮らせるよう生活基盤の整備や再構築に向けて積極的な役割を果たす。）

【成果と課題】

9月に1名の利用者の母の入院により、家庭で介護者が不在となる事案が発生し、5日間短期入所事業の利用となった。母が退院後、元の生活に戻っているが、母が高齢ということもあり、母不在の場合の生活基盤の整備について検討が必要となっている。また、家族の高齢化によりグループホーム入居を希望していた他の利用者1名の入居先を関係機関と連携し探したところ、令和7年2月にグループホーム入居することができた。

(4) 一人ひとりの社会性や能力の伸長

【成果と課題】

【1階グループ】

利用者の多くは40代以上で就業経験があり、社会経験も豊富なことから、改めて社会的ルールの学習が必要な人は若年層に限られているが、脳血管障害の影響からか、感情のコントロールが苦手な利用者もいる。たまに些細なことで利用者同士のトラブルに発展することがあるが、職員の仲介や助言により、大きなトラブルに発展していない。多くの利用者は年齢的にも身体的機能においては向上よりも維持に重点が置かれているが、繰り返しや継続で作業の正確性や効率性が向上する利用者が多く、全般的に作業意欲も高い。

【2階のグループ】

多くの利用者は自発的に行動することが多く、また集中して作業に取り組むことが出来ている。令和5年6月から当番制にした朝礼の出席確認や昼礼時の弁当注文の確認の取り組みも継続しており、一人ひとりが責任感を持って取り組んでいるように感じる。また、将来一般就労を目指している利用者2名が小平市役所での施設外実習に参加した。施設外で作業を行うことで、個々の課題が明確になったほか、将来に向けた良い経験になったと感じている。

(5) 作業活動の充実

- ① 安定した作業提供
- ② やりがいを感じることでできる作業の実施
- ③ 新規作業の開拓
- ④ 利用者の作業能力の維持、向上
- ⑤ 作業収入の維持、向上

年間作業収入目標額 9,400,000円

（令和5年度作業収入見込額 9,300,000円）

- ⑥ 利用者工賃向上

月額平均工賃目標額 14,856円

※ 工賃算定方法の変更に伴い、事業計画書の令和6年度目標工賃を変更

【成果と課題】

- ① 受注作業の取引先と密に連絡を取り、安定して作業提供を行うことができた。また、ダイレクトメール作業の納品と資材搬入の間の閑散期（半日から1日程度）は、資源回収作業や清掃作業など他の作業を中心に行うことや、事業所内の消毒、清掃、備品の手入れ等を行い、時間の有効活用に取り組んだ。

②多くの利用者が集中して作業に取り組んでいるほか、流れを把握し、準備や片付けを自発的に行う姿もよくみられる。また、作業の納期を職員に確認し、「頑張って終わらせないとね」「納期に間に合ったね」などの言葉が聞かれ、全般的に仕事に責任感ややりがいを感じている様子が伺えた。

③臨時の作業ではあるが、法人内の他の事業所との共同受注で防ダニシートの袋詰め作業を新規に行った。1か月程度の作業期間で、4万5千円の収入があったが、作業手順に正確さを欠き、一部返品があったことは反省点であった。また、4年前に1度実施した小平市のキャンプ場の除草作業をスポットで行い、約2万8千円の収入があった。

④多くの利用者は、これまで行ってきた作業を継続して行い、作業能力は概ね維持できている。また、多くの利用者は作業を通じて社会性や自発性向上が見られた。また、継続して自助具などを使用し、作業の工程の技術向上に向けて取り組んでいるほか、数人ではあるが、未経験の作業にも挑戦し、作業の幅が広がった利用者もいた。

⑤

	作業収入
令和5年度実績	約940万円
令和6年度目標	940万円
令和6年度実績	約962万円
目標の達成率	102.3%
前年度比	約22万円増

③の臨時作業収入もあり、目標の収入を達成することができた。

⑥

	令和5年度実績	令和6年度目標	令和6年度実績
月給	14,809円	14,856円	15,192円

令和5年度実績の14,809円より383円増額し、月額平均工賃は15,192円となり、月額1万5千円を超えることができた。

（6）健康管理の充実

- ① 新型コロナウイルス感染症など感染症対策を徹底する。
- ② 利用者健康診断・身体測定を実施し、健康状態の把握に努めるとともに、利用者の家族・保健師等との連携を密にし、疾病の予防に努めるほか、機能低下への対応を行う。
- ③ 看護師による健康相談の実施

【成果と課題】

- ① 基本的な感染予防対策を実施したが、5月から3月にかけて利用者6名、職員9名の計15名が新型コロナウイルス感染症に、職員2名がインフルエンザに罹患した。一時期に集中的に感染が広がるという事態はなかった。
- ② 利用者健康診断を8月にあきる台病院の検診車にて実施した。
- ③ 法人内生活介護事業所から看護師派遣の協力を得て、1名の利用者に週3日、他1名の利用者に週1日の褥瘡治療を実施した。その他健康相談等はなかった。

2) 人材育成

（1）一人ひとりの利用者への丁寧な支援

【成果と課題】

利用者からの相談には傾聴の姿勢を務めており、利用者とは概ね良好な関係性が築けていると感じるが、声かけが命令口調になることや目上の利用者に対してあだ名で呼ぶことは依然として見られている。その都度注意を行っているが、徹底に至っていない。事業所としての指導の徹底

不足もその一員と考えている。利用者からは健康に関する相談が多く、必要に応じて医療機関への橋渡しや通院同行を行った。

(2) PDCAサイクルの実施など支援スキルの向上

【成果と課題】

利用者の状況や支援の経緯をケース記録に丁寧に記載すること、また記録等を基に個別支援計画の達成状況について評価することについては定着してきているが、管理者の指導不足もあり、支援計画の目標設定や計画に関連付けて記録をとることは依然不十分である。また、記録の字が雑で読めないことがあり、“読み手が読める記録”を残すことの徹底には至っていない。

(3) 職員のチームワークの強化

【成果と課題】

各グループの職員態勢や作業の進捗状況を確認しながら、グループ間で相互に協力し合うことが多くなっている。また、自分のグループ以外の利用者の状況についても関心を示す職員が増えてきているように感じる。課題は現場リーダーとなる職員の不足である。適切な指導や内部牽制強化の為にリーダーの育成が必要となっている。

(4) その他

外部より無表情で活気がなく、挨拶をしない職員が多いとの指摘を多く受けた。職員の雰囲気は事業所の雰囲気や利用者の心情面に大きく影響することから、年度後半から活気ある職員集団作りに取り組みを始め、徐々に変わりつつある。

3) 経営管理

(1) 月次試算を正確に行い、経営状態の把握に努めるほか、必要に応じて補正予算を行い、計画的に予算を執行する。

【成果と課題】

月次試算表に基づき計画的な予算執行ができた。経年劣化により車両1台の買い替えが必要となったが、夢の樹みどりでは不要となった車両1台を当事業所へ移管し、対応した。

(2) 経費削減を徹底する。

- ① 未使用スペースの消灯等節電の徹底。
- ② 整理整頓により、備品、消耗品等の在庫管理を徹底する。
- ③ 印刷物については必要枚数の確認や、枚数の多いものについては試し刷りを行うなど無駄な印刷を行わないようにする。

【成果と課題】

備品や消耗品においては、在庫確認により無駄な購入を防止している。徐々に印刷プレビューの確認不足による無駄な印刷や、未使用部分の消灯やエアコンの消し忘れの改善がみられるが徹底には至っていない。

7 事故等報告

- 1) 5月 利用者の送迎中の車両をバックで移動した際、距離感を見誤り、車両を駐車していた車両にぶつけてしまい、相手車両の右ドアミラーが破損した。怪我人等はなかった。
- 2) 9月 車両を駅のロータリーへ進入した際、時間帯によって通行禁止になる標識に気付かず、走行し、現場にいた警察官に通行禁止の違反を受けた。
- 3) 9月 車両を駐車するため、バックで移動した際、車両の左前を縁石に擦った。
- 4) 11月 車両を駐車場で方向転換する際、駐車していた車両2台の間に空きがあり、その間にバックしたところ、1台の車両の右ヘッドライトに車両をぶつけた。乗車していた利用者1名が胸骨にヒビが入る全治3か月（リハビリ含む）の怪我をした。
- 5) 12月 利用者1名が無人販売のパン屋でパンを窃盗した。被害者のパン屋からは、盗んだ分の代金を支払ってもらえれば、今後も継続して利用して良いとの話しがあった。
- 6) 1月 事業所の敷地内の駐車場で、車両を動かした際、左側に停車させていた車両との間隔を誤り、車両の左側ともう1台の右側ヘッドライト付近をぶつけた。怪我人等はなかった。
- 7) 2月 利用者の送迎中の車両をバックで移動した際、距離感を見誤り、マンションの雨どい

ぶつけた。怪我人等はなかった。

- 8) 3月 資源回収作業で車両を運転中、駐車場から車道に出る前に歩道を走行していた自転車と車両の前方が接触した。運転手及び同乗者に怪我はなかったが、自転車に乗っていた相手が指の擦り傷と胸部を打撲する怪我をした。また、自転車の荷物カバーが破損した。

8 開所状況

- 1) 開所期間 自 令和6年4月1日 至 令和7年3月31日
2) 開所日数
(1) 週開所日数 5日間
(2) 開所時間 午前8時30分～午後4時
(3) 年間延開所日数 243日間
(4) 平均活動時間 7時間

9 利用状況

- 1) 利用者延人員 12,910人(前年度 12,634人)
2) 1日平均利用人員 53.1人(前年度 52人)
3) 体験実習実人員 5人(前年度 15人)
4) 体験実習延人員 14人(前年度 70人)

10 利用者状況(令和7年3月31日現在)

1) 年齢

20歳未満	2名		
20歳以上30歳未満	9名		
30歳以上40歳未満	15名		
40歳以上50歳未満	17名		
50歳以上60歳未満	14名		
60歳以上70歳未満	12名		
70歳以上	4名	平均年齢	45.9歳

2) 障害の状況

愛の手帳 2 度	1 1 名（内身障手帳所持	1 名）
愛の手帳 3 度	1 5 名（内身障手帳所持	2 名）
愛の手帳 4 度	2 3 名（内身障手帳所持	5 名、精神保健手帳所持 2 名）
身体障害者手帳 1 級	6 名（内愛の手帳所持	3 名）
身体障害者手帳 2 級	9 名（内愛の手帳所持	2 名）
身体障害者手帳 3 級	3 名（内愛の手帳所持	1 名）
身体障害者手帳 4 級	2 名	
身体障害者手帳 5 級	3 名（内愛の手帳所持	2 名）
身体障害者手帳 6 級	1 名	
精神保健手帳 2 級	4 名（内愛の手帳所持	1 名）
精神保健手帳 3 級	5 名（内愛の手帳所持	1 名）
手帳なし	1 名	

3) 通所手段

送迎車利用	39名	(内6名交通機関、内4名徒歩等と併用)
交通機関利用	26名	(内6名送迎車両、内2名徒歩等と併用)
徒歩等	18名	(内4名送迎車両、内2名交通機関と併用)
家族送迎	3名	
グループホーム送迎	1名	

4) 居住状況

管内居住	61名	管外居住	12名
------	-----	------	-----

5) 性別

男性 57名 女性 16名

1.1 生活支援プログラム実施状況

1) 実施日数

(1) PG実施日数 138日

(2) 週平均実施日数 3日

2) 利用者（令和7年3月31日現在）

(1) 利用者数 3人

(2) 利用者延人数 183人

3) 支援者（令和7年3月31日現在）

(1) 職員 4人

(2) ボランタリースタッフ 7人

(3) 職員延人数 41人

(4) ボランタリースタッフ延人数 144人

4) 内容

(1) ウォーキング 138回

1.2 夕方生活支援事業実施状況

1) 参加者 25名

2) 延べ 334名

3) 延実施回数 97回

4) 月別実施状況

実施月	実施回数	延参加人数
4月 :	8回	29人
5月 :	8回	25人
6月 :	8回	32人
7月 :	8回	27人
8月 :	8回	24人
9月 :	8回	25人
10月 :	8回	24人
11月 :	8回	26人
12月 :	8回	32人
1月 :	8回	32人
2月 :	9回	31人
3月 :	8回	27人

5) 内容別実施及び参加状況

内容	実施回数	延参加人数
ボウリング	36回	143人
DVD鑑賞	12回	33人
ドライブ	11回	32人
料理	6回	38人
ヘアークット	12回	23人
さんぽ	6回	13人
テーブルゲーム	12回	44人
すいか割り	1回	7人
買い物	1回	1人

1.3 環境の整備

定期的に室内や建物周辺の清掃を実施し、年間を通して清潔な環境を保つことができた。

1.4 防災計画

災害時避難訓練を年2回実施した。